



ねん はじ
2016年の初め

かいひょうざいん き の わき えつろう
ちいろば会評議員 木ノ脇 悦郎

あけましておめでとうございます。

とは言っても、もう二月ですね。でも、この原稿を書いているのは一月ですから、まだ新年のあいさつでもよろしいですよ。ところで、皆さんは新年をどのようにお迎えになりますか？何か決まった習慣とか毎年の恒例の行事のようなものがあるでしょうか。ある人は、神社やお寺の初詣に行くかもしれませんね。それも清々しい気持ちになって新しい年を迎えるのにふさわしいことかもしれません。教会の新年礼拝も新しい決心をしたり、過ぎた年のお守り感謝し、この年の神様の恵みを祈るのにふさわしいものだと思います。特に、「ちいろば」は、教会から生まれたわけですから、皆さんがそのことを新年の迎え方として新しく取り入れることは素晴らしいことだと思います。

ところで、僕自身のことですが、僕は毎年お正月の新年礼拝に出かける前に、まず家族で聖書を読み、お祈りをすることになっています。過ぎ去った去年の日本や世界のことを思ったり、新しい年への願いを込めて聖書の言葉から励ましを受けることにしているのです。今年の聖書は、マタイによる福音書5章43節から48節まででした。そこには「敵を愛しなさい」と書かれていました。続けて「迫害する者のために祈りなさい」とも書かれています。とてもそんなことは出来ません。だって、自分のそばにいる人を愛することでも難しいのに、どうして敵を愛することができるのでしょうか。さて困りました。読み進めていきますと「父は悪人にも善人にも太陽を昇らせ、正しい者にも正しくない者にも雨を降らせてくださる」という言葉に出会いました。そうか、神様にとっては僕が苦手だと思ったり、いやな奴だと思ったりする人も大事なのか。雨や風、太陽は、確かに彼奴は僕の敵だと思っている人間にも平等に降り注いでいるし、僕が悪いことをしたり、意地悪をしても雨が僕にだけ降らなかったり、僕にだけ太陽が当たらないということはないよな、ということに気付いたのです。

去年の日本や世界は、様々な争いがありましたし、不幸なことがいっぱいありました。気持ちがふさがりそうにもなりました。誰が悪いのかとも考えました。そして悪い奴はやっつけてしまえばいいと、結論を急ぎそうになりました。でも、それでは人間はみんな滅ぼされなければなりません。神様は、そんなことは望んでおられないのです。誰も滅びることがないように、みんなが生き生きと喜んで生きられるようにと望んでおられるのです。そのことを伝えるためにイエス・キリストが上に書いたような聖書の教えを語ったのでした。では、人間の不幸や争いはどうすればいいのでしょうか。それを考えることができるように、神様は私たちに心を与え、他の人のことを考える力をも与えたのでしょうか。

今年は、どんな年になるでしょうか。いや、僕がどんな年にしたいか、またそのためにどんな宿題が僕に与えられているか考えるほうが正しいのかもしれませんが。そのために、聖書があるのでしょ。ね。「ちいろば」には、そのような大切な教えが初めにあって、職員の方やメンバーの皆さんが生き生きと活動できているということを考えさせられたのでした。この一年、そのような神様のことを思いながら過ごしたいものだと思います。

「ゆいの職員として」

子ども発達サポートセンターゆい 楠本 杉子



ゆいが開所して次の4月で満5年。保護者、関係者の皆様に支えられ、ゆっくりと成長してきたゆいですが、次年度からはNPO法人そら（新設事業所）と統合し（事業主体をちいろばからNPO法人そらに変更）、名前も変えて新たな活動を始めることになりました。変更に伴い多くの皆様にご不安とご迷惑をおかけすることになり、誠に申し訳ありません。「ちいろば会のゆい」に通ってくれた子どもたち、保護者の皆さまへの感謝の気持ちは尽きません。また統合に至った経緯は改めてご報告できればと思っていますので、今回は常にゆいを支えてくれた職員のお話をさせていただきます。

ゆいが開所してから様々な場面で活躍してくれた職員の皆さん。職員それぞれの経験を存分に発揮してもらい、子どもたちが活動に集中しやすいように、また活動の意味を伝える工夫に試行錯誤し、何よりも子どもたちが楽しんで取り組める環境設定を心がけてくれました。何事も子どもたちのことを「知りたい」と思うことが原点。そこから支援が始まります。「子どもたちを活動に押し込もうとしないこと」「子どもたちの成長を横並びに考えない事」と伝え続け、いつのまにか集団活動の中には個別支援が沢山含まれるようになりました。「支援はオーダーメイド！」全ての子どもたちに違う支援が必要なので、いつでも頭を柔軟に、想像力を豊かに持つておくことが必要です。

「本当にこの支援方法で良いのか常に不安」と自分の支援を振り返る職員。でもそれが支援者にはとても大事。常に不安であって欲しいと思う。「これでいい」なんて自己満足な支援は必要ない。その「不安」に思うことが子どもたちの人権を守ることに繋がり、不安だからこそ支援者として模索し続けることに繋がっているのですから。悩み続けることは支援者にとって苦しいことだけれど、子どもたちも幼児期から学齢期、思春期へ、そして大人へとなる成長の中で悩み続けている。きっと不安でしょうがない。職員も共に成長するものならば、その不安も分け合い続けて欲しいと願います。そして小さな出来事にも喜びを共感できる感情の豊かさを備えていてください。

子どもたちの成長と同じように、職員が成長していく姿を見ることも喜びでした。ゆいのお母さんの的な存在の職員は、子どもたちのことも職員のことも、いつも広い気持ちで受け止めてくれて後輩指導にも尽力してくれました。保育園での仕事の経験を活かして、活動に厚みを持たせてくれた職員の影響も大きかったです。これから色々と勉強していこうと取り組み始めた職員もいます。終業時間になっても、私が止めるまで職員同士でいつまでも子どもたちのことを話し合っている姿には敬意を表します。

さて管理者の私ですが、この5年で随分と「指導」する上で必要なことを学びました。できる限り具体的な指示内容と実践を共にすること。職員が迷い悩んだ時には、必ず道標になること。職員に直接チャレンジしてもらい、失敗を支えること。共に喜ぶこと、悩むこと、そして守ること・・・そんな心構えで日々を過ごしてきました。私もまた悩み続け、皆さんに支えられた5年間でした。

3月でちいろば会としてのゆいの物語は終了です。ゆいの職員は今後も新しいステージで力を発揮してくれると思いますので、どうぞ皆さまには引き続きご支援とご指導をお願い申し上げます。職員の皆さん、ゆいに沢山の愛情を有難う。今後も愛情溢れる支援者でいてください。

知的障 害をもつ人に対する合理的配慮について 考 えてみよう！ ⑨

ちいろば園 えん おくだようこ
奥田陽子

先日新聞で、ホテルのユニバーサル対応について紹介されていました。主だった内容としては、ロビーで車の貸し出し、レストランで会食をする場合に食事の内容を希望（柔らかくしてほしい、素材を細かく切してほしい等）に添った形で提供すること、宴会場でのマイクの音声を増幅する設備などのサービスが挙げられていました。これらは比較的高齢の方に対するホテル側の配慮ということになるでしょう。高齢化が進む中でこういった要望が多くなり、対応できるホテルが増えてきたと考えられます。

では知的障 害をもつ人の場合はどうでしょう。ホテルでの宿 泊に際してどのような配慮があると過 ぎや ずくなるのでしょうか。

さくねん えん いっぱくりよう い とき できごと ゆうしょくじ えんかいじょう こばち つく にももの
 昨年ちいろば園の一泊旅行に行った時の出来事です。夕食時、宴会場では小鉢、お造り、煮物・・・と
 ぐあい いっぴん じゅん りょうり はこ
 いった具合に一品ずつ順にお料理が運ばれてきました。

支援者①：「^{しえんしゃ}次のお料理^{つき りょうり}きたで～、さあこの次^{つき なに}は何かな～」

えー
Aさん : 「デザートある？」

支援者①：「どうやら、デザートあるのかなあ、これで終わりかなあ…」

Bさん : ・ ・ ・ 席^{せき}をた^いってどこかへ行ってしまいました。

支援者②：「Bさんに食後のお薬のんでもらわなあかんのやけど、

お料理これで終わりやろか…？」

知的障 害をもつ人の場合、見通しが持てず不安になることが多くあります。

いま　　なに　　お　　お　　なに　　など　　みとお
今から何をするのか、いつ終わるのか、終わったら何があるのか等の見通し

が**つく**ことで**あんしん**して**こうどう**できます。また、そのことを**ことば**だけで**つた**えるより

視覚的に伝えることでより理解しやすくなります。他にも、感覚の偏りによって音や声、光に敏感な人もい

ます。食^{しょく}事^じ会^{かい}場^{じょう}ではできるだけ人^{ひと}の出^で入^いりの多^{おほ}い場^ば所^{しょ}やス^すピー^ぱカー^かの近^{ちか}く^くの席^{せき}は避^さけて、安^{あん}心^{しん}して食^{しょく}事^じがで

き^{ばしよ}る^{ゆうどう}場^{なとくうかん}所^{はいりよ}に^{たいせつ}誘^{かんが}導^{かんが}して^{かんが}もら^{かんが}う^{かんが}等^{かんが}空^{かんが}間^{かんが}へ^{かんが}の^{かんが}配^{かんが}慮^{かんが}も^{かんが}大^{かんが}切^{かんが}な^{かんが}こ^{かんが}と^{かんが}だ^{かんが}と^{かんが}考^{かんが}え^{かんが}ま^{かんが}す^{かんが}。

知的障 害をもつ人と一緒に外 出した時に、こんなこと！ あんなこと！ と思いつくことが街の中でどんどん

かたち ようぼう はっしん ひつよう
形 になっていくように、要望の発信が必要なんでしょう。



しなが
 こんなお品書きがあると、
 しょくじ たの
 食事が楽しくなるね！

もうひとつ . . .

ねんまつ　ほうじんない　けんしゅう　ゆうせいしそう　かなが　だれ　こころ　ゆうせいしそう　ひそ
 年末、法人内の研修において『優生思想』について考えました。誰の心にも優生思想は潜んでいること
 きづ　けんしゅうないよう　けんしゅう　たい　ゆうれつ
 とを気付かされる研修内容でした。その研修で、「オリンピックに対してパラリンピックがあるのは優劣を

つけていることになるのか？」という問いが投げかけられました。両大会の存在自体が一方を『優秀』とし、一方を『劣等』にしてしまうことになるのか…、オリンピックが先でパラリンピックが後に開催されることに

疑問を持つべきなのか…と今まで 考えもしなかったこの問いに悩みましたが、パラリンピックにはオリンピッ

クとは異なるルールが存在することが頭ことに浮そんざいかびました。視覚あたまに障う害しかくのある方しょうがいが競かた技きょうぎするブラインドサッカー

一では、ボールは転がると音が出る特別なボールを使用します。音声情報が大切なので、試合中の観戦は静

か^{おこ}に行なわれます。水泳では、視^{すい}覚^{えい}に障^{しかく}害^{しょうがい}のある方がター^{かた}ンやゴールタ^{さい}ッチの^{かべ}際^{あた}に壁^まに頭^{あたま}をぶつけないため

にコーチがタッピングバーといわれる合図棒^{あいずぼう}を使って選手^{せんしゅ}に知らせることがルールで認められています。下肢^{か し}に

しょうがい　と　こ　　こんなん　せんしゅ　　すいちゅう　　みと
障 害 があり飛び込みスタートが困難な選手には、水 中 からのスタートも認められています。

出 場 選 手 の 障 害 の 度 合 い 等 に よ っ て ク ラ ス 分 け を し 、 そ れ ぞ れ に 合 わ せ て ル ー ル や 用 具 等 を 変 更 、

改^{かい}良^{りょう}、工^く夫^{ふう}して行^{おこ}なわれているパラリンピックは、障^{しょう}害^{がい}に對^{たい}する合^{ごう}理^り的^{てき}配^{はい}慮^{りょ}がなされているという良^よさがある

るのではないかと ^{わたし} ^{かん} 私 は感じます。

今夏リオデジャネイロでオリンピック、パラリンピックが開催されます。

みなさんはその区別くべつやあり方かたについてどう考かんがえますか？



ピープルファースト in 兵庫大会に参加して

ちいろば園職員 北村 翔太

2015年10月31日と11月1日の二日間、ピープルファースト大会に参加させて頂きました。今回で第21回目となるピープルファースト大会は阪神淡路大震災から20年が経つ、兵庫県の神戸で開催されました。

1日目の全体会では阪神淡路大震災と東日本大震災を経験した方が地震により困ったことや大変だったこと、今の様子について話をされていました。時の経過とともに、日常を取り戻すことができている人も多い反面、まだまだ困難な状況の中、復興への長い道のりを覚悟しながらも必死に頑張っている人がいます。今回のピープルファースト兵庫大会の「なかまをふやして助け合おう。被災地をみんなで元に戻そう」というテーマがあるのですが、明るい未来を想像し、希望を持って頑張りたいという当事者の方の強い思いが伝わってきました。2日目の分科会では、「自分はこうなりたい」「自分はこう思う」という当事者自身が主体的に自分の意見を持って訴えている姿が誇らしく思いました。

今回参加して思ったことは、当事者の方の自己決定を尊重するために私達(支援者)は一人ひとりが主体的に行動ができる環境を作るのが支援の役割で、「この人は〇〇ができない」という固定概念を持つのでは無く、その人自身が持っている能力を最大限に活かすことができる支援が必要だと改めて感じました。

2016年は横浜でピープルファースト大会が開催されます。多くの方に知ってもらい、誰もが生きやすい社会になるようにしていきましょう。



ちいろば会職員リレー エッセー



支援の場面で納得できなかった事

グループホーム にぬふあ星 井上 啓樹

私には今でも納得できないために自問している出来事があります。

まだ本法人に入職していない15年前、いろんな施設に実習に行っていた時のことです。責任者に『支援者たるもの「大丈夫ですか？」で終わったらあかん。』との指摘を受けました。

その頃の私は、児童のボランティアを10年間続けた自信もあり経済学部から福祉に方向転換し張り切っておりました。しかし実習での評価は自信と裏腹に低く、納得いかない私は責任者に直に理由を伺いました。そこで先ほどの言葉をバチーンとくらいました。

私が利用者に「〇〇は大丈夫ですか？」と尋ねて利用者が「はい」と答える。それで質問を終わらせてしまっていたのです。やりとりの質・量ともに不十分で、利用者本人の困りごとを発見しようとしていないしその覚悟もない。こちらから尋ねて一方的に話を終わらせたという印象をもたれた方もいたかもしれません。失礼な態度だったと思います。

私は支援者として「軽すぎる」という評価を受けました。意気込みの分だけ自分がプロとして不足しているものが大きいことに気づかされ丸ごと否定されたような気がしました。

私は楽天的な人間ですが、この出来事はことあるごとに思い出されました。

ちいろば会に入職し数年経った後でも利用者やピープルファーストで出会う初対面の方とうまくコミュニケーションがとれなかった時に、一方で同世代の支援者が障害のある当事者と真剣に話し込んでいる姿を見て、劣等感とともになぜ自分はできないのかと自問しました。悔しさだけで答えは出ませんでした。

傾聴というものは受け身では成り立たずタイミングを見て積極的に具体的に質問を投げて踏み込むことも必要です。また尋ねたかぎりは専門性をもって答え、必要な支援につなげなければいけません。今ならわかるこれらも方法論の域を出ません。もっと人間というものを知らなければ「軽い」支援者から脱皮できないと私は思います。

次は、支援センターの窪さんにバトンを渡したいと思います。

よろしくお願いします。

テーマは引き続き「支援の場面で納得できなかった事」です。

ならけんしょうがいぎゃくたいぼうし けんりようごけんしゅう ほうこく
奈良県障害虐待防止 権利擁護研修 の報告

ちいろば^{えん}園 たつ^み辰己 まな^み真奈美

がつ か にち ふつかかん ならけんしょうがいしやぎゃくたいぼうし けんりようごけんしゅう しょうがいふくししせつじゅうじしや
11月2日と 11日の 2 日間『奈良県障害者虐待防止 権利擁護研修 障害福祉施設従事者コ
ース』の研修に行かせていただきました。

けんしゅう おも ないよう さっこん もんだい ふくししせつじゅうじしやとう しょうがいしや
研修の主な内容は、昨今いろんなところで問題になっている福祉施設従事者等による障害者
虐待防止の徹底というテーマで行われました。

ぎゃくたい げんいん ひと こじん もんだい しえん ふじゅうぶん ぎゃくたいぼうし
虐待の原因の一つには、個人の問題として支援スキルが不十分であり、また虐待防止に
ついての基礎知識がないため支援に行き詰まり、行動障害を抑えるために暴行に至ると
考えられる。そのためには自分自身がこの仕事にやりがいと役割を持ち、自分はなぜこの仕事を
しているかを考え、日々謙虚さを持つ事が大切である。

しょうがいとくせい りようしや きょうみ も かんせい き ちから みが ぎゃくたい
また、障害特性や利用者に興味を持ち、感性や聞く力を磨かなければ虐待がなくなることは
ない。

おお かんが ゆういせい ちかかん と みずか と しゃかいぜんたい かだい
もっと大きく考えると、‘優位性の価値観’への問いかけを自ら問い社会全体の課題として
私達が変わっていかなければならないという使命を与えられているんだという認識を持たなけれ
ばならない。『虐待は悪意はなくても起きるし、自覚はなくても虐待している時がある』と、講師
の先生が言われた事がとても印象に残っています。

こんかい けんしゅう じゅこう ふだん べんきょうかい しょくいんかん しつ たか あらた かん
今回の研修を受講し、普段ちいろばでの勉強会や職員間でのやりとりの質の高さを改めて感
じました。

しえんしや ふだん りようしや かんけいせい たいせつ こ こ しょうがいとくせい まな
支援者として、普段から利用者さんとの関係性の大切さや、個々の障害特性について学ぶこと
はあたりまえの事であって、自分がそんな環境で仕事をさせていただいていることに感謝し、
これからの支援に生かしていきたいと思います。



ちいろばクリスマスコンサート 2015 ～ギターとチェンバロで楽しむクリスマスコンサート～

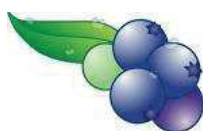


かつ にち と えん ねんまつこうれい
2月12日(土) ちいろば園では、年末恒例
のちいろばクリスマスコンサート 2015 が開催
されました。
まいとし しゅつえん
毎年、ご出演くださっているチェンバロ
そうしゃ こうの こ こんかい
奏者の河野 まり子さん、そして今回はギタ
ーのまつもと よしお きょうえん
一の松本 吉夫さんとの共演でした。

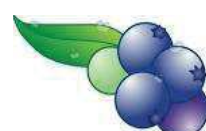


こ きゃくさま
コンサートにお越しいただいたお客様も
ひとあしはや まんきつ
一足早いクリスマスを満喫されていました。

らいねん と たの よね だ
来年度も楽しみですね!! (米田)



ブルーベリーのオーナー制について



ちいろばだより NO. 206 号でお知らせしましたブルーベリーのオーナー制についてですが、検討
した結果次年度(2016年度)については5口(5組)限定のモニター募集という形で実施したいと
思います。より良いオーナー制にするため次年度はお客様の意見を聞き今後につなげていければと考
えています。詳細については下記お問い合わせまでご連絡下さい。一緒にブルーベリーのオーナー制
を盛り上げていくぞ! という方、ぜひご協力の程よろしくお願い致します。

オーナー様がすること

- ① 5月頃、ちいろば園に来てブルーベリーの株(木)を選ぶ。
- ② 7月中旬～8月初旬、ブルーベリーの収穫。

★場所：ちいろば園 ★1口(1株)：3000円 ★申し込み期間：3月11日(金)まで

○お申し込みは電話にて、【お名前、ご住所、ご連絡先】をお知らせください。

(平日 8:30～17:30)

※5組以上の応募があった場合は抽選のうえオーナー(モニター)を決定します。

●お問い合わせ先：電話／0745-72-1923

担当／園芸部門

☆月々 (2015 年 10 月 1 日～2015 年 11 月 30 日)

安部ひとみ(10.11)、井戸上聡・侑子(10.11)、植村葉子(6～9)、大西真規子(10.11)、
 小澤千恵子(10.11)、小野寺彩子(10～12)、木ノ脇悦郎(11.12)、木村和子(10.11)、篠原範子(10.11)、
 ト田啓三・昭子(10.11)、諏訪英子(10.11)、高倉常子(10.11)、高谷三郎(10.11)、田中廣子(10.11)、
 田中伸一・真紀子(10.11)、筒井早苗(10.11)、塚本智恵子(9.10)、中園大三郎(10～12)、
 中村康子(10.11)、中村由美子(10.11)、永井雅子(10.11)、永田清子(8～11)、西浜櫓和(9.10)、
 馬場隆昭(10.11)、原見静江(5～10)、備後直子(10.11)、福田容子(10.11)、本圓喜代美(10.11)、
 牧村スマ子(10.11)、松藤みどり(9～11)、松藤ゆずり(7～11)、松村上子(10.11)、
 本岡信光・真(10.11)、森山幸子(10.11)、山内イネコ(9～12)、山内敦子(10.11)、保井裕之(10.11)、
 吉田幸子(10.11)、樋口さつき(10.11)、中村ここみ(10.11)、奥田しずる(10.11)、鈴木りこ(10.11)、
 森田美和(10)、田中涼葉(10.11)、河内はるのすけ(10.11)、深澤ゆうすけ(10.11)、石川悠(9.10)、
 吉兼瑛大(10.11)、高田桜(9.10)、富田忠一・直美(10)、和田泰子(10.11)、石川徹(10～3)、
 橋本勝寿(10.11)、黒川正通(10.11)、木村朋子(10.11)、信田裕香(10.11)、森川佳紀(10.11)、
 新谷貴雄(10.11)、木下好司(10.11)、小川あゆみ(10.11)、阿波宏晃(10.11)、原武史(10.11)、
 斉藤総一郎(10.11)、井原由夏(10.11)、谷野裕悟(10.11)、石原慎也(10.11)、西村周也(10.11)、
 西田久美子(10.11)、藤原小百合(10.11)、梶原拓馬(10.11)、梅田敬子(10.11)、辰巳普宣(10.11)、
 梅野玲子(10～12)、藤本千絵(10.11)、長尾良子(10.11)、松本敬子(10.11)、小倉奈々(10.11)、
 坂本友希(10.11)、中森未来(10.11)、竹下由里子(10.11)、濱野由利子(10.11)、吉田陽亮(10.11)、
 吉村公嘉(10.11)、東岡慎也(10.11)、船井裕史(10.11)、大谷龍樹(10.11)、岩本咲人(10.11)、
 村上智子(10.11)、吉井紗英(10.11)、西村昭彦(10～1)、山田援(10.11)、
 柳瀬弘一(10.11)、吉岡佳菜(10.11)、坂口ゆうすけ(10～1)、辰己真奈美(10.11)、高見良平(10.11)、
 佐野仁美(7.8)

☆一括 (2015 年 10 月 1 日～2015 年 11 月 30 日)

山中邦夫

以上 敬称は略させていただきます

二〇〇〇年十二月十二日 第三種郵便物承認 毎月 (一・二・三・四・五・六・七・八の日) 発行

KSKS ちいろばだより

編集人／ ちいろば会後援会

年 6 回 頒価 50 円

連絡先／ 奈良県生駒郡三郷町勢野北 5－6－14

TEL : 0745-72-1923 FAX : 0745-31-5760

発行人／ 関西障害者定期刊行物協会

大阪市天王寺区真田山町 2－2 東興ビル 4 F